

望みの門訪問看護ステーション

平成27年2月 第5号季刊誌



さくら草

連絡先：富津市富津 617-14

Tel：0439-87-6611

疾患論・新職員の紹介

『疾患論』

望みの門訪問看護ステーション

管理者 渡邊 零子

さくら草も今回で5号となりました。第1号から3号まで、『看護の誕生』として、4号は『看護の目的』についてお話ししました。

今回は疾患論（総論）です。

『看護覚え書』のなかで「すべての病気は、その経過のどの時期をとっても、程度の差こそあれ、その性質は回復過程であって、必ずしも苦痛をともなうものではないのである。つまり病気とは、毒されたり、衰えたりする過程を癒そうとする自然の努力の現れであり、それは何週間も何カ月も、時には何年も以前から気づかれずに始まっている、このように進んできた以前からの過程の、そのときどきの結果として現れたのが病気と言っ現象なのである。」

看護小論集では「病気とは何か？病気は健康を妨げている条件を除去しようとする自然の働きである。それは癒そうとする自然の試みである。我々はその自然の試みを援助しなければならぬ。病気というものは、いわば形容詞であって、実体をもつ名詞ではない。」

つまりナイチンゲールは『病気とは回復過程である』といっているのです。



説明しますと、回復過程＝修復過程と考えて下さい。私たちが、風邪をひき熱が出ます。熱が出るということは・・・白血球の働きを高め、菌をやっつけています。つまり修復しているのです。咳が出るというのは・・・喉についた異物や病原菌などを排出している姿なのです。こうしてのどを修復しています。下痢をしていることは・・・体内に入った有害な食物や菌を洗い流して、腸を修復しているのです。

では癌も回復過程なのでしょう？（ここでは回復とは治る、という意味ではないのです。癌は、発癌物質（発癌因子）によって体内に癌細胞が発生した姿です。しかし生体はそれを阻止する力を持っています。けれど老化や栄養バランスの崩れなどで体力が低下していると、がん細胞は増えていきます。しかしその間も、がん細胞に対して体内の免疫機構は働いているのです。回復しようとしているのです。

それならば、回復過程を助けるにはどうしたらよいのでしょうか？まず発癌物質を取り込まないように、添加物の少ない食物をとり、タバコは止める。体内の免疫力を高めるために、明るい生活をしてストレスをためない。良く笑う、感謝の気持ちを持つこと。健康細胞の作り替えが順調に進むように、質の高い睡眠をとり、バランスのとれた食生活をおこない、新鮮な空気と食べ物を取り入れることです。

医学の見方はルドルフ・ウィルヒョウが「病気とは、身体の一部の器官の一部の細胞群に何らかの病変がある状態」と定義したことから、医学は細胞に生じた病変を病気と考えています。ここに近代医学と近代看護は別々の道を歩むようになりました。

私は『医師は病気の細胞をみる』『看護は健康な細胞を見る』と考えています。その為持てる力に注目した看護計画を考えております。これからも宜しくお願いいたします。